2021

Community Collaboration Center
コミュニティ・コラボレーションセンター

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL（0561）62-4111（代表）

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL（052）781-1151（代表）

2021 年度CCC活動報告書
発　行：愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

CCC
活動報告書

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

コミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）とは

愛知淑徳大学の理念「違いを共に生きる」に込められた思いを受け継ぐコミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）は、「地域に根ざし、世界に開く」という姿勢で、学生の実践力を育む「教育」と、学生の自主活動を支える「支援」に取り組んでいます。

学生一人ひとり、輝く個性や未来を拓く力を持っています。その大きなパワーを地域での「体験」や「実感」を通して引き出すのが、CCCの役割。学生のさまざまなコミュニティと連携を強め、地域社会と大学の活性化を図ること、そして、これから社会へ羽ばたく学生たちの視野を広げ、人間力や社会に貢献できる人材になるための力、生きる力を育むことをめざしています。

CCCから地域、社会、世界へ飛び出した学生は、さまざまな人と交流を深めながら共に活動し、「違いを共に生きる」社会の実現に向けた新たな風を次々と起こしています。

CCCの学生育成ビジョン

広い視野と行動力、豊かな人間力を持ち、社会に貢献できる人材を育成

学生の実践力を育む
「教育」
地域や社会とつながる新しい教育プログラムを創り出す

CCC 開設科目
- **講義型授業**
  「CCC スタートアップ講座」
  「障がい者支援ボランティア」
  「企画立案の基礎」「ファシリテーター養成講座」
- **課題研究型・演習型授業**
  「CCC キズナプロジェクト」

学生の自主活動を応援する
「支援」
一人ひとりの思いをカタチにし、自主活動を支援する
学生一人ひとりが持つ活動への意欲や思いを大切にし、学外のさまざまなコミュニティとの出会いをコーディネートしながら、学生自ら活動の幅や人との輪を広げていけるようにサポートしています。

【図】CCCの学生育成ビジョン

CCCの特色

1 「地域や社会に貢献したい」という思いに応える教育カリキュラム

CCCでは、企業やNPOが実際に抱える課題をグループで解決していくPBL（課題解決）型授業、ボランティア活動やまちづくりに関する基礎知識を学ぶ講義型授業などを通して社会貢献活動について学びます。

2 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

地域の行政機関、企業、NPOなどからボランティアの募集情報が届きます。CCCでは、学生の思いに耳を傾け、それに合わせたボランティア活動を紹介・支援しています。

3 学生が企画・運営する地域活動をサポート

CCCでは、地域での課題を自ら発見し、それらを解決するために、数多くの学生団体が活躍しています。活動に行き詰まった場合は、CCCスタッフが寄り添い、一緒に課題の解決を目指します。

活動のイメージを伝えるために、コロナ禍前の写真を用いております

目　次

1 震災から10年… 4・5
2 TOPIC 6
3 ちょこっとボランティア講座リレー 7・8
4 コラボメッセ
- 4.1 オープンコラボメッセ 9
- 4.2 コラボメッセ 9・10
- 4.3 学生コラボメッセ 11

5 2021年度　活動実績 12
6 センターの取り組み
- 6.1 カリキュラム 13・14
- 6.2 活動サポート 15
  - （1）マッチング 16・17
  - （2）自主活動の支援 18・19
  - （3）チャレンジファンド 20・21

7 学生スタッフの活動 22
8 2021年度　全体講評 23
9 初めてボランティアを募集される方へ 23

Information

2016年２月「CCC labo」開設

みんなの笑顔で、地域を変えよう！
活動の様子を絶賛公開中！

本書にて紹介しきれなかった学生たちの活動の様子を、特設サイト「CCC labo」にて発信しています。
ぜひご覧ください。

◀ QRコードまたは
CCC labo nagoya
で検索！

① 震災から10年…

学生団体「なごやであそび隊」は震災が起きた2011年から活動が始まり、東日本大震災で被災し、愛知県に避難されてきたご家族・子どもたちの支援に力を注いできました。子どもたちのニーズに合わせてお楽しみイベントや学習支援などを企画・実施し、子どもたちやご家族の心が癒される居場所づくりをめざし続けています。

また、福島県の小学校への本の寄贈や毎年のメッセージ交換を継続するなど、被災地の方々との心の交流も大切にしてきました。

東日本大震災から10年が経過した今年は、被災した方々へのメッセージ集の寄贈プロジェクトがおこなわれ、卒業生も含め40名のあたたかい想いが込められた１冊が完成しました。

福島県の小学校の先生方のご協力のもと寄贈先が決まり、福島訪問が実現しました。南相馬市内の見学もおこない、かつてまちだった場所が一面の太陽光パネルになっているなど、震災がもたらした現状も目の当たりにしました。

震災の記憶をみんなで共有し、お互いの思いに寄り添って支え合うことの尊さをあらためて実感しました。

なごやであそび隊のあゆみ

2011年

- 3月　東日本大震災後、学生有志が学内で募金活動をスタート。
- 4月　学生有志が震災意見交換会を実施し、名古屋でできる支援を考案。
- 6月　「なごやであそび隊」設立。愛知県被災者支援センターを通じて、愛知県内に避難している子どもたち・ご家族25組が参加。
- 7月　第１回のイベントを東山動植物園で実施。（以降、現在に至るまで多様な企画を実施）

2012年

- 9月　学生有志がCCCチャレンジファンドを活用し、約60冊の児童書を福島県の小学校に寄贈。その学校内で「愛知淑徳大学図書館」がつくられ、子どもたちが読書を楽しむ。

2013年

- 9月　福島県の小学校との交流活動を「なごやであそび隊」が引き継ぎ、手作りの写真立てやメッセージを子どもたちに届ける。（以降、メッセージや動画などの交換を毎年実施）

  福島県の被災地を夏・冬の年２回訪問。（以降、コロナ禍の2020年・2021年を除く毎年実施）

2016年

- 7月　名古屋市や愛知県、東山動植物園の協力のもと、動植物園でイベントを実施。（以降、コロナ禍の2020年・2021年を除く毎年実施）

2018年

- 子ども向けイベント「おたのしみかい」を、他の学生団体と連携して学内で開催

2019年

- 8月　子どもたちから寄せられた「勉強を教えてほしい」という声に応え、学習支援活動をスタート。

2020年

- 7月　コロナ禍の状況にあわせて郵便での学習支援やマスクの配布などを実施

2021年

- 11月　福島県・南相馬市立小高小学校を訪問し、メッセージを贈る

代表からのメッセージ

なごやであそび隊では、10年間様々なかたちの活動がありました。私の４年間でも、ニーズの変化により遊びから勉強中心になったことや、コロナで文通による学習支援をおこなうようになるなど、そこに至るまでの難しさもありました。ですが、どのような状況でも被災された方々を想う気持ちは変わっておらず、またこの先もずっと変わらず心の中に残っています。なごやであそび隊として私一人ができたことは小さかったかもしれませんが、他人事だったことを自分事として捉え直すことで、ひとりの人として助け合う大切さをこの活動で学びました。また、なごやであそび隊をここまでつなげてくださった卒業生の先輩たちやCCCのスタッフさんのおかげで今の自分があること、とても感謝しています。次は卒業生としてなごやであそび隊を後輩につなぎつつも、私も変わらず想い続けようと思います。

交流文化学部　４年　伊藤　菜々子

TOPIC

② コロナ禍がつづく今、できること

Withコロナの生活にも少しずつ慣れてきた2021年度。まだまだ今までのような活動ができないですが、対面活動とオンラインのハイブリット式で、感染対策を徹底しながら活動をおこなってきました。その中で、始まった活動をご紹介します。

食品ロス削減活動

星が丘キャンパスの売店「Letus」にある賞味期限間近の食品が廃棄にならないよう、食品ロス削減活動をおこなってきました。活動を始めたきっかけは、飲食店でアルバイトをしているときに、食品廃棄の量の多さが気になったことです。活動を通して感じたことは、まず食品廃棄をなくすことはかなり難しいということ、そして一人だけでは絶対になくすことはできないということです。しかし一人一人が意識して生活すれば減らすことはできます。食べ物がなくて困っている人がたくさんいる中で多くの食べ物が捨てられていることがあってはいけないと思います。一人でも食品廃棄のことを意識してもらえるようになれば嬉しいです。

ビジネス学部　3年
平野　将太郎・赤木　勇紀

野菜の皮で染物体験

私がこの活動を始めようと思ったきっかけは、普段何気なく捨てている野菜の食べられない部分をそのまま捨てるのはもったいないと思ったためです。私自身野菜が育つのにどの位の時間が必要か知りませんでしたが、今回ご縁があり農家さんに直接お話を伺う事ができ、玉ねぎだと５か月位かかるということを知りました。これだけの時間と労力をかけて我が子のように大切に野菜は育てられているのです。そこで、今回私は玉ねぎの皮を利用して染物体験をしました。野菜の皮などは煮だすと様々な色が出ます。絵の具としてお絵描きも染物も楽しめます。この活動からみなさんに普段「食べられない」という理由から捨ててしまう部分でも食べること以外の使い方が出来るということを知ってもらい、野菜の様々な楽しみ方をしてもらえれば嬉しいです。

交流文化学部　2年　中島　梨緒

ロスゼロチーム　売れなくなった野菜を使って色々なレシピを考えよう！

活動を始めたきっかけは、まだ食べられるのに多くのものが捨てられているという世界や日本の現状を知ったからです。調べると、予想もしてなかったほどの量がお店や家庭、スーパーから廃棄されていると知り、食品ロスを減らすための活動をしたいという思いになりました。活動内容は、八百屋さんから売れなくなった野菜を引き取り、カフェなどで活用してもらう、自分たちでロス食材を調理しInstagramに投稿するなどです。どちらの活動も捨ててしまうような食材でも美味しく食べられるということを少しでも多くの方に知ってもらいたいという思いのもと活動をしています。活動を通して、食品ロスの問題の深刻さや重大性を感じるとともに、それを多くの人に伝え、食品ロス削減をおこなってもらうことの大変さを実感しました。今後の活動では、食品ロスについて少しでも知ってもらい、ほんの少しの工夫で食品ロス削減ができることを伝えていきたいと思っています。日本や世界の食品ロス問題を大きくは変えることはできないかもしれませんが、少しでも食品ロスについて考える人が増えるよう、今後も活動を頑張っていきたいと思います。

健康医療科学部　3年　梅津　真依

あそぼうさい、まなぼうさい

防災ボランティアは、遊びながら学んでもらう「あそぼうさい、まなぼうさい」をテーマに活動を進めました。 活動内容は、週に１回から２回、スタッフの方に協力をしてもらいながらこれまでに起きた大地震の被害、避難所で必要になるものなどを調べ、それをもとに名古屋市の小学生にオンライン、長久手市の小学生にはリニモテラスで対面のそれぞれ１回ずつ防災講座をおこないました。講座内容は、初めに震度とマグニチュードについて、次に阪神淡路大震災と東日本大震災の被害について、簡単な防災クイズ、最後に新聞紙スリッパ作りです。この活動を通して、子どもたちが笑顔で楽しみながら防災について学んでもらうことができてよかったと感じました。また、小学生でも理解できる説明の難しさや、メンバーとのチームワークの大切さ、防災についての知識を学ぶことができました。

ビジネス学部　3年　水野　竜太朗・山下　修平

③ ちょこっとボランティア講座リレー

CCCでは、「ちょこっとボランティア講座リレー」と題して、ボランティアや社会貢献についての理解が深まるように、各方面でご活躍をされている方を講師としてお呼びし、お話を聞く会を開催しました。
普段、なかなかお話を聞くことのできない貴重な内容で、学生それぞれの心に響いたと思います。これをきっかけに、行動につながると嬉しいです。

● 講座一覧 ●

4月23日

元トヨタ自動車
ボランティアセンター長　鈴木様

テーマ
ボランティアで社会が変わる！自分が変わる！
なぜ、企業が社会貢献をおこなうのか？

5月27日

豊田市役所次世代育成課　秋田様

テーマ
せっかくの大学生、地域を使って、やりたいことをやっちゃおう！
自治体が大学生とおこなう「まちづくり」。大学生たちはどんな参画をしているのか！？

6月25日

元福島市岡山小学校校長　宮武様

テーマ
東日本大震災から10年。この10年が福島の人にとって、どんな10年だったのか。現地が考える「これからの復興には、何が必要か」

7月1日

メニコン株式会社　小畑様

テーマ
仕事にプライベートに、ボランティア。社会人先輩の話を色々聞いてみよう！

10月25日

ソウル大学大学院（元韓国にて教員）
藤本様（卒業生）

テーマ
韓国から後輩のみんなへ。学生時代にどう過ごすと、今後に活きてくる？韓国の若者事情も含めて、世界で生き抜く力について、うかがいます。

11月8日

名古屋大学　URA　野原様（卒業生）

テーマ
“東海発起業家育成プログラム Tongali”のコーディネーターである野原先生。Tongaliの活動には、学生時代の活動がどう活かされているのか、うかがいます。

11月18日

南山大学３年生　FIWC東海所属
東村様

テーマ
ハンセン病の啓発活動をおこなっている東村さん。ハンセン病患者の支援活動の話や、将来の夢の話は、同じ学生として刺激になるものばかり☆

11月25日

株式会社デンソー　足立様（卒業生）

テーマ
ボランティアって、就職に活かせる学生時代の過ごし方第２弾。学生時代の体験の中で、今社会人として活きているものは？

12月９日

児童養護施設岡崎平和学園
小笠原様

テーマ
養護施設で暮らす子どもたちの日常と先生の想い。

12月16日

愛知淑徳大学４年生
なごやであそび隊所属　伊藤様

テーマ
学生からみた“リアルな今の福島”と震災支援活動について伺います。

12月23日

元愛知淑徳大学
交流文化学部教授　榎田様

テーマ
国際貢献の最前線で活躍された後、企業のCSR活動の助言をされてきた元愛知淑徳大学教員榎田先生。学生時代、どんな経験をすれば社会に活かすことができるか、そのヒントを頂きます。

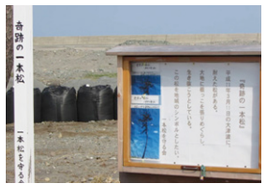
たくさんの素晴らしい講座の中から、一部を要約してご紹介をさせて頂きます。

鈴木さん

学生生活に生きがいを持つためには、何よりもまずは“健康”が大事」。そして、笑顔が生まれ、心が動き、人との関わりが生まれるボランティア活動は、生きがいを手に入れるのにもっともよい方法の一つである。「ボランティア活動に参加してみたいけれど、勇気がない」という学生たちの背中を押すように、「まずは、チャレンジしてみることが大切」。さらに、企業が母体となるボランティアセンターで長く務めた経験から、「企業は今、社会貢献や地域貢献を一つの使命としていて、ボランティア活動の経験がある人材と、協力したいと思っている」。ボランティア活動が未来を切り拓く鍵にもなりうると、その魅力を語られていました。また、「このシチュエーションは、果たしてボランティア活動でしょうか？」と、クイズも織り交ぜながら、ボランティア活動の身近さとすばらしさを伝えていただきました。

宮武先生

福島県で小学校教員を続けてみえた宮武先生。2011年３月11日、当時は福島第４小学校の教頭先生として勤務されていました。東日本大震災が起きた、あの日、あの時、小学校では何が起こっていたのか。すべての児童の帰宅が無事に終えるまで、子ども達と声をかけあって、体育館で過ごしたこと。震災後、すぐに児童の家庭の状況確認、安否確認に一件、一件先生方が自転車で周られたこと。ガソリンが手に入らなく、自転車での安否確認しかできなったので、当時、原発の状況が分からず、多くの先生たちを原発の危険にさらしてしまっていたかもと悔やまれていました。震災当時の様子を刻銘にうかがうことで、災害への恐怖と日頃の災害への準備や心構えの必要性を感じました。また、「教員」という人生の先生方が、子ども達と向き合い、職務を全うするすばらしい姿勢に感銘を受けました。



小笠原先生

岡崎平和学園で園長を務める小笠原先生。始めに、様々な要因で家庭で養育されない子どもたちに対する支援の制度についてうかがいました。また、先生の目から見る、学園で過ごす子ども達との生活を丁寧にお話いただきました。朝、子ども達の部屋を回っての「おはよう」「まだ、眠い？」の声かけから、登校、登園に出発する子ども達に「いってらっしゃーい」。

乳幼児のみんなは園に残って、園庭での遊び。そして、夕方、順番にそれぞれの学校から帰ってくる子ども達に「おかえりなさい」。夕食時は、全員一緒に「いただきます！」。夜は宿題をしたり、ゲームをしたり、同じ部屋の仲間とお話したり。そして、就寝時間の「おやすみなさい」。先生から教えていただいたのは「大きな家族」の話でした。誰にでもある日常。その日常が穏やかに、全ての人にありますように。そう、願いたくなりました。そして、家族を大切にしよう。明日を大事に生きよう。周りの人に感謝する気持ちが沸き起こりました。

4 コラボメッセ

4.1 オープンコラボメッセ

2021年12月11日（土）に、㈱デンソーと共同開催でオンラインによる「オープンコラボメッセ」をおこないました。開催経緯は、コロナ禍以前は㈱デンソーがおこなう「ハートフルまつり」（※）にCCCとしても学生たちがブース出展や運営ボランティアに参加させて頂いていたからです。しかし、新型コロナウイルス感染拡大が始まった2020年からは、大勢で集まることができないため、「ハートフルまつり」もYouTubeで届ける形となるなど、以前とは違う形式で続けてみえました。

新型コロナウイルス感染拡大が続きそうだからこそ「コロナ禍でも励みながらボランティアに望むデンソー社員のために」「学生のモチベーションをあげて活動に取り組めるように」と、オンラインではあるもの県内のNPO法人や施設の現状を知り、自分ができるactionを見つけ出す場とする会の開催に至りました。

※㈱デンソー主催で本社にNPO法人、企業、大学などが集まり、活動紹介や交流を図ることで団体協力や地域に対して、より社会貢献の気運を創り出すイベント。

学生のコメント

今年のコラボメッセもオンライン開催でしたが、デンソーの社員の皆様と学生の意見共有を通して、ボランティアへの学びを深めることができました。普段、社会人の方々がどのような思いでボランティアに取り組まれており、そこから何を学ぶのかといった生の声を聞く機会は滅多にないので、学生にとって大変有意義な時間でした。そして、当たり前のように見ているボランティア掲載誌も、世代を越えて多くの方の自主的な協力があって作られていることに初めて気づきました。“とにかく考える前にやってみる”。この前向きな気持ちでボランティアに取り組むことが最も大切であると再認識したため、これからも果敢に活動に取り組んでいきたいです。

交流文化学部　３年　岩井　祐斗

2021年度　特別報告

4.2 コラボメッセ

2021年12月19日（日）に、行政機関、企業、NPO法人など（以下、CCC連携団体）のみなさまと一堂に会する第７回「コラボメッセ」をおこないました。例年、対面でおこなっていましたが、今年も昨年に続きZoomを活用し、活動紹介などをおこないました。昨年に続き、今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、12月19日（日）にオンラインで開催しました。本学の学生団体が18団体、他大学の学生団体や企業・行政機関・NPOが22団体参加し、総勢90名以上が交流しました。

講演 「自分のチカラ、社会のチカラ」を考える　卒業生　野原　かほり様　より

内容要約

学生時代に挑戦する想いあるたくましい大人たちの背を見てきたからこそ、社会をよくする１ピースとして自己実現をしてきたいと願うようになった。

今後は、自分の人生の「幸せ」や「豊さ」とは何かを考えたときに、より豊かな社会のために、“つながり”と“可能性”を創出する存在でありたいと同時に、一母親として、自分の子どもの未来のために、小さく大きくアクションを続け、次世代にバトンをパスしていきたい。人とつながり、社会と関わりながら「わたしだからできることの追求」を続ける。

講演

最初におこなわれたのが、文学部英文学科（現：総合英語学科）の卒業生・野原かほりさん（現在、名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部URA所属）による講話。「『自分のチカラ、社会のチカラ』を考える」というテーマで、在学中のボランティア経験や卒業後のキャリアについて語りました。学生たちにとって、先輩の体験談や熱いメッセージは刺激になり、新たなチャレンジへの意欲を高める有意義な時間になりました。

団体で協力しあったら、できることは何か？を考える

続いて、参加者が12のブレイクアウトルームにわかれ、同じルームになった各団体が対話や意見交換をおこないました。「どんな思いのもと、どんな活動に励んでいるのか」「自分たちがコラボレーションしたら何ができるのか」といったことが話し合われ、学生たちも積極的に発言し、これからのボランティア活動や新たな取り組みにつながる気づきを得ていました。

最後はイベントの締めくくりとして、今後の活動に向けたアクションプランを全体共有しました。学生は「メディアの専門性を活かして、自分にできることを実践していきたい」「“知ること”の大切さを実感。人に伝えることから始めたい」「『思い立ったら吉日』という気持ちでボランティア活動に挑戦したい」とさまざまなアクションプランを発表。企業の方々は「社会課題と大学での学びをつなげて考えるなど、学生の皆さんの志の高さに感動しました」「社会に目を向けている学生たちの思いを、社内でも共有できたらと思います」と語り、学生たちのさらなる活躍に期待を寄せていました。

ご協力をいただいた連携団体・他大学学生団体のみなさま

千種区選挙管理委員会事務室、デンソー、東邦ガス、トヨタ自動車 ボランティアサークルJDRトヨタ、長久手市 たつせがある課、名古屋市市民活動推進センター、名古屋市社会福祉協議会、名古屋市総合調整室、名古屋市千種区社会福祉協議会、日進市市民協働課、ボラみみより情報局、楽歩、WAFCA

岐阜大学、中京大学、東海SIVIO（愛知淑徳大学）、とよた学生盛りあげ隊、Aivo（愛知大学）、DoNabe net in あいち（愛知県立大学）、FIWC東海委員会（南山大学）、HIAMU（愛知医科大学）、Windra（ナゴ校）

※あいうえお順

4.3 学生コラボメッセ

～知り合おう！乗り越えよう！～

今年度３回目となるコラボメッセは、そのときに画面上で出会った大学生の団体が中心となり、大学生のみでの活動報告・交流会になりました。

今回集まったのは、地元の大学で活動する10の団体。活動報告で最初に登場したのは、本学の「アミーゴ」。アミーゴは愛知県内に住む外国にルーツをもつ子どもたちを支援する団体です。現在、外国にルーツをもつ子どもたちの不就学問題が様々な地域で課題となっています。全国的にも、愛知県は外国にルーツを持つ子どもが多い県と言われているため、アミーゴは愛知県西尾市の教育委員会などと連携し、西尾市立鶴城小学校に通う外国につながる子どもたちへ本の読み聞かせをおこなったり、大学とはどんなところなのかなどを紹介するために愛知県犬山市にあるNPO法人シェイクハンズを訪問する活動をおこなっています。発表した交流文化学部の学生たちは、外国につながりを持つ子どもたちの将来のために、彼らが描く夢をどのように実現させることができるかが課題だと話してくれました。

デイサービスや障がい者支援施設などで楽器演奏をし、音楽を通じて楽しさや喜びを届ける活動をしているのが本学の「Fsus４」。コロナ禍以前は現場に訪問して楽器を演奏していましたが、コロナ禍で活動が難しくなりました。そこでZoomなどのウェブコミュニケーションツールを利用したり、DVDを作成したりして、施設へ想いを届けるなどの工夫をしていることを紹介しました。また、プレゼンテーションでは楽器演奏を披露している動画などを織り交ぜ、映像と音で発表していたのが印象的でした。

その他にも在日外国人の支援などの国際的な活動から防災・災害復興などの地域貢献活動、食品ロス低減活動、ハンセン病の啓発活動など、様々な分野で活躍する学生団体が興味深い発表をおこないました。

発表後は交流会として、各団体同士がコミュニケーションを取る時間が設けられました。ここでは、コロナ禍での活動において工夫している点などを中心に活発な意見交換がおこなわれました。学生たちは、新型コロナウイルス感染症の影響で思うように活動できないもどかしさを感じながらも、つながりが途切れないように様々な工夫をし、前向きにできることを考え、少しずつでも活動を進めようとする想いを感じました。

参加団体

愛知学院大学ボランティアセンター、愛知大学Aivo、愛知県立大学Donabe、インカレSIVIO、岐阜大学、中京大学じゅんとす、南山大学ＦＩＷＣ、名古屋市ナゴ学校（Hand in Hand、maps）、愛知淑徳大学学生団体アミーゴ、Fsus4

5 2021年度 コミュニティ・コラボレーションセンター 活動実績

利用状況

CCC登録者人数	1,456人
利用者数	延べ8,319人 (内オンライン464人)

登　録　ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録
利用者　情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティングなどで来室する学生
参加者　連携団体から募集があったボランティア活動にCCCを通して申込み・参加した学生、または学生団体などの自主活動に参加した学生

募集型ボランティアへの参加者数

※(分野別)

年　度	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	震災支援・防災	学生団体	その他	計
2021年(対面)	59	46	8	46	16	0	290	0	465
2021年(非対面)	164	12	0	9	0	0	199	5	389
2020年(対面)	0	0	5	0	0	0	33	0	38
2020年(非対面)	70	1	0	89	0	23	132	0	315

産学官連携事業 (抜粋)

- 愛知県との連携
  かがやけ☆あいちサスティナ研究所の研究員として本学学生が参加

受託事業 (抜粋)

- 子ども大学にっしん(委託者:日進市)
- 長久手市大学連携推進ビジョン4Uの推進に関する事業(委託者:長久手市)
- 日進市男女共同参画パートナーシップ事業(日進市)
- 小坂地域連携プロジェクト(委託者:下呂市)

助成金交付事業 (抜粋)

- 日進市より助成
  ・学生団体「チームわんわん」による介助犬の認知度・理解拡充活動
  ・学生団体「なないろ」によるLGBTQの認知度・理解拡充活動
- 国際ソロプチミスト名古屋-栄より助成
  ・学生団体「ボランティアサークルあじゅあす」による障がい者や高齢者対象のイベントの企画・運営

その他連携事業 (抜粋)

- 株式会社デンソーとの連携
  コラボメッセを共同開催
- 東邦ガス株式会社との連携
  学生団体「エネAS」が、ガスエネルギー館にてイベントを企画運営
- 愛知医科大学との連携
  瀬戸コンソーシアム事業「瀬戸こども食堂」を有志の学生が共同で企画・運営

メディア掲載情報 (抜粋)

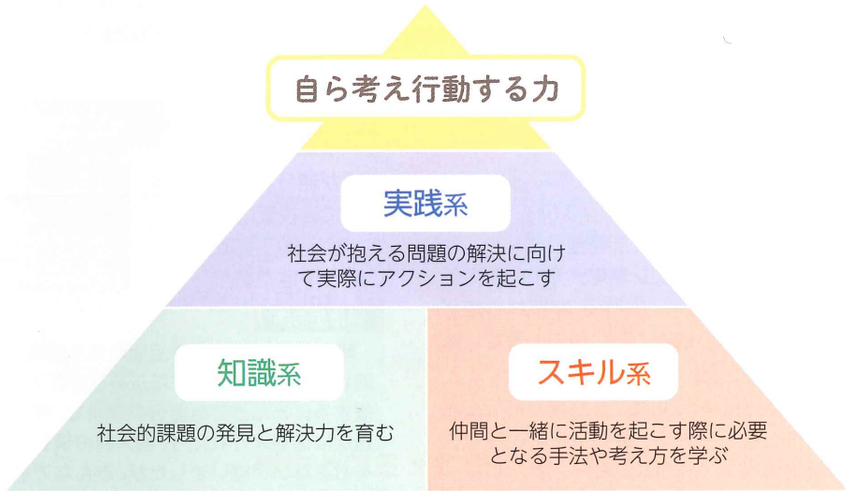
発行日	掲載紙	掲載内容
2021年8月15日	中日新聞(県内版)	リニモテラス夏祭り
2021年9月20日	朝日新聞(県内版)	NPO法人WAFCAインターンシップ
2021年9月21日	朝日新聞(名古屋尾張知多版)	NPO法人WAFCAと絵本作成
2021年10月28日	新三河タイムズ	浄水交流館ハロウィンイベント
2021年11月1日	ボランティア情報誌　ボラみみ11・12月号	大学生特集ページ ～567with～未来の日常～
2021年11月20日	中日新聞(なごや東版)	長久手こども食堂
2021年11月27日	読売新聞(岐阜県版)	下呂市小坂町と学生団体ポレラ
2022年1月1日	ボランティア情報誌　ボラみみ11・12月号	大学生特集ページ ～みんな知りたい！ジェンダーと私たち～
2022年1月10日	中日新聞(名古屋東版)	リニモテラス冬祭り
2022年1月16日	中日新聞(名古屋市民版)	コーヒーボランティア
2022年3月10日	中日新聞(名古屋東版)	学生団体「tASUkeai」愛知県警感謝状贈呈式

6 センターの取り組み

6.1 カリキュラム

地域へ、未来へ、走り出す。
自ら考え行動する力を育みます。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう「CCC開設科目」を開講しています。ボランティアの基礎知識や様々な事例を学ぶことで社会的課題の発見と解決力を育む「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要となる手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」など、多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルを修得します。



2021年度CCC開設科目一覧

知識系	CCCスタートアップ講座	沖　直子 先生、戸澤　真奈美 先生
	ボランティア	沖　直子 先生
	障がい者支援ボランティア	荒賀　博志 先生
	まちづくりマーケティング	沖　直子 先生
スキル系	企画立案の基礎	今井　里香 先生
	ファシリテーター養成講座	沖　直子 先生
実践系	CCCキズナプロジェクトA・B	沖　直子 先生

授業報告「障がい者支援ボランティア」　荒賀　博志 先生

「障がい者」と聞くと、よくわからないことが多いのが現状だと思います。気にはなるけど、傷つけてしまったらどうしよう、よくわからないから何もできないと思うのは当然だと思います。こう思ってしまうのは「障がい者」のことを知らないからだと思います。授業では、障がいにはどんな特性があるのか（身体、知的、発達、精神障がい）、対応・支援方法はどんなことがあるのかを講義と実技を通してみんなに知ってもらおうと思っています。今年は、実技で車いす介助を障害者ヘルパーステーションで働く職員さんと当事者に来て頂き、車いすに乗って介助される立場と介助する立場の２つを体験しました。視覚障害者のガイドヘルプ体験では、実際にアイマスクをつけて学内をサポート役の学生と一緒に歩き、サポートする側と視覚障害者側の２つの立場で体験しました。もうひとつは重度身体障害者の当事者に来て頂き、日常生活をどう過ごしているか、介助される側の気持ちなどの話をして頂き、学生のみんなからの質問にも答えて頂きました。実技を体験すること、当事者の話を聞くこと、講義での障がいに対する新しい情報を得ることで、学生の考え方に変化が出てきました。

障がい者支援を通じて、学生の視野や考え方が広がり、「お互いさま」という気軽な気持ちで今後、障がいがある人たちと関わっていけるきっかけになれば嬉しいと思っています。

履修生の声

毎回、新たな知識を身につけることが出来る、とても有意義な授業でした。また、障がいのある方と実際に話す機会や、車椅子体験といった、実践的な学びを得ることも出来ました。実生活で障がい者支援に関わることになった際、この授業で得た学びを活用していきたいと思います。　福祉貢献学部　１年　竹田　多英

授業報告「CCCキズナプロジェクトB」　沖　直子 先生

この授業は、地域やNPOと連携し実際に活動をおこなうプロジェクト型授業です。今回はNPO法人ポパイと連携し、学生企画で展覧会を開催しました。会場は商店街の再生をおこなうニシヤマナガヤの未完美術館です。学生はアール・ブリュットと呼ばれる障がい者の常識にとらわれない個性の強い絵画の数々に驚き「この強烈な作品に囲まれる体験を届けたい」と100点以上の作品を選定しました。５日間で約150名の方が来場し、作品も５万円以上販売することができました。この展覧会後も交流は続き、アート活動を一緒におこなった時は、相手の方の個性を障がいよりも「作家さん」として捉え、一緒にダンスをしたり絵を描いたり、楽しく感受性溢れる時間を過ごしました。支援するという役割以外の関わり方が新鮮でした、との感想が語られました。春休みには授業の枠を超えて、第２弾の展覧会をおこなう予定です。

履修生の声

障がい者のアート作品展覧会を開催し、短期間にも関わらず約150名の来場があり好評でした。しかし開催するにあたっては苦労の連続で、展示のための作品選定には悩まされたり、搬入時の慣れない釘打ち作業をおこない戸惑いましたが、みんなで協力しながら乗り越えて、成功させることができ良かったです。NPO法人ポパイさんとの交流は、私にとって福祉やアートについて考える機会となり有意義な時間でした。
交流文化学部　２年　矢野　晴菜

授業報告「企画立案の基礎」

本授業はチームでの課題解決という実践を通して「アクションを起こす力」を高めることをねらいとし、連携団体から提示されるテーマに対して企画立案、中間・最終報告をおこないました。実在する社会課題がテーマになっていること、連携団体からのフィードバックがあることで学生たちは良い緊張感を持ちながら取り組んでおり、回を重ねるごとに個々の学びやチームの絆が深まっていると感じました。報告の後には振り返りをおこない、最終回にはメンバー同士で褒め合う・感謝し合う時間を設けました。どの学生も最後まで良い顔をしていたことが印象的でした。この授業を通して学び得たことを次のステージに活かしてくれれば嬉しいです。

履修生の声

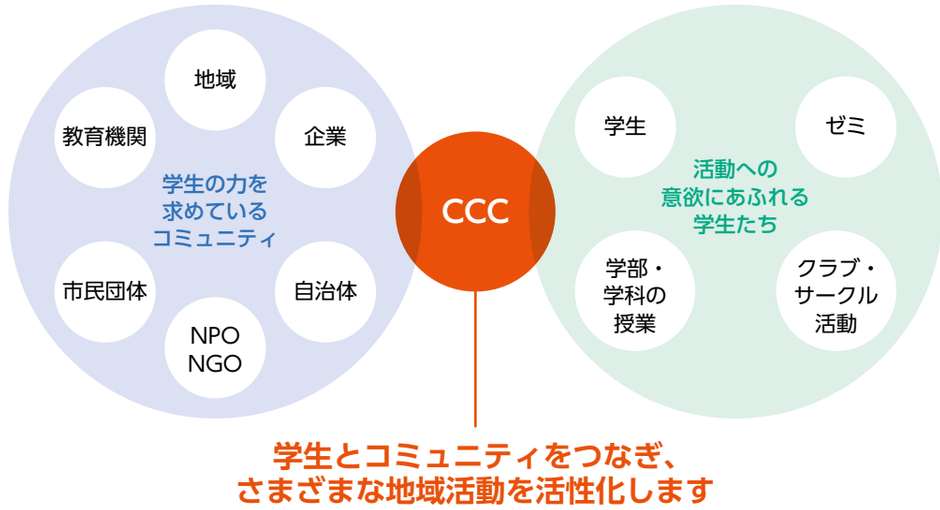
チームで何時間も熟考し、企画を立案することは初めての体験でした。授業では学年や学部を問わず、全員が積極的に意見を提案し、議論し合う経験を重ねたことで、発案する力や協調性、コミュニケーション能力を磨くことが出来ました。これらの学びを今後の生活にも活かしていこうと思います。
交流文化学部　１年　矢幡　まりな

6.2 活動サポート

みんなが蒔いた「種」を、大きな「樹」に育てたい。
地域貢献、社会貢献活動をきめ細かくサポートします。

「チャレンジしたい！」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは 、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人ひとり異なり、活動の目的や内容も多岐にわたっています。そこでCCCは、学生とコミュニティとの出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結び付ける橋渡しをしています。

特にCCCを拠点に活動する学生団体には、CCCスタッフが「アドバイザー」として寄り添い、活動を進めていく上で見つかった課題の解決をサポートしています。運営資金をサポートする「チャレンジファンド」(P.20・21参照)のほか、2015年度からは学外の地域団体とのコラボレーションを実現する「コラボメッセ」(P.9・10参照)を年１回実施するなど、支援制度を拡充しました。



学生とコミュニティをつなぎ、さまざまな地域活動を活性化します

サポートの3つの形

(1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング …… 16・17
(2) 学生団体などによる自主活動の支援 …… 18・19
(3)【学内助成事業】チャレンジファンド …… 20・21

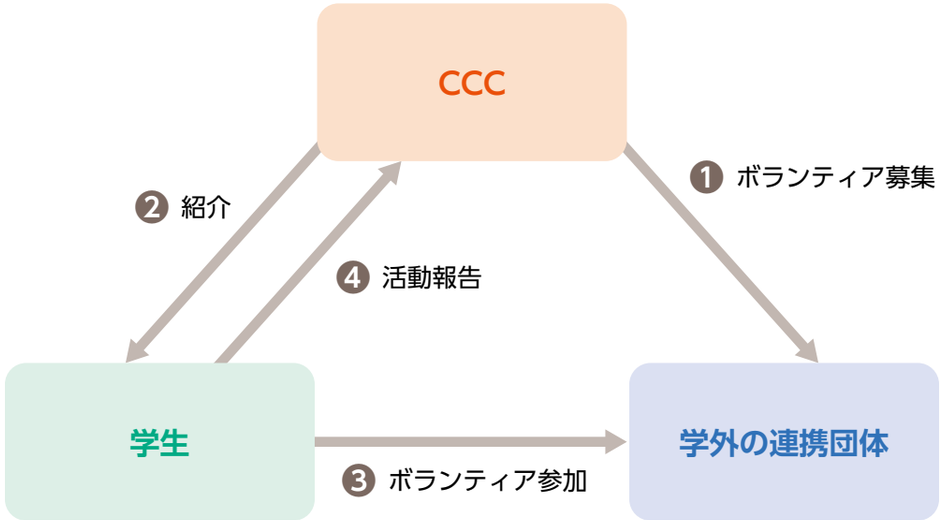
(1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

自主活動に挑戦する学生の初めの一歩として、ボランティア活動への参加があります。

センターでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングをおこなっています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、月に２回、全学生に電子発信しています。活動分野は、国際交流・協力、青少年育成、まちづくり、福祉、環境など様々です。2021年度は、延べ2496人が活躍しました。

ボランティアコーディネートの仕組み



国際交流・協力　つくも日本語教室

連携先：社会福祉法人九十九会 つくも日本語教室　土屋様

連携先の方からのコメント

子どもたちが「この間の学生さんは、今日は来ないの？」とたどたどしい日本語で問いかけます。高齢者のボランティアが多いため、子どもたちは自分たちより少し年齢の上の学生さんに親近感を持っているようです。日頃は、家庭では母国語、学校では同国人と行動していると聞いていますので、日本語を十分に話す機会が少なく、学生さんに宿題を手伝っていただき、しりとり、トランプやゲームをして、楽しい会話が大変に日本語の勉強になっているようです。反対に中国語の発音を聞いている学生さんもいたりして、和気あいあいの教室をつくっていただいております。今後ともご協力をお願いします。

学生コメント

つくも日本語教室では、外国にルーツのある子どもたちに、日本語の勉強や宿題のお手伝いをしています。さらに、遊びやイベントもおこなっているので子どもたちと仲を深めることができる楽しい活動です。

一緒に勉強していると、子どもたちができるようになったことや覚えた日本語を嬉しそうに教えてくれます。私も外国にルーツがあり、幼いときに日本語が不自由でたくさん苦労してきましたが、自分と同じ立場の子たちが楽しそうに日本語教室に通ってくれているのを見ると少しでも心の支えになりたいと思い活動してきました。子どもたちの成長を身近で感じることができ、とても嬉しい気持ちになります。言語の壁を越え、挑戦していく子どもたちをこれからも見守っていきたいと思いました。

交流文化学部　2年　荻久保　マユミ

福祉　まちかど保健室

連携先：一般財団法人名古屋市療養サービス事業団　近藤様

連携先の方からのコメント

まちかどカフェ～認知症カフェ～は今年で８年目を迎えます。認知症ご本人、認知症ご家族、一人暮らしなど、地域の高齢者の方々にご参加頂いています。保健師、介護支援専門員の資格を持つ職員が担当しています。コロナ禍でオンラインでの開催もありました、学生さんの参加で多世代交流の場となり地域の方も楽しそうでした。普段は寡黙な認知症の方も嬉しそうに言葉を発するなど、効果が見られています。これからも若い視点で色々指摘して下さいね。末永くお付き合いお願いします。

学生コメント

千種区にある「まちかど保健室」にておこなわれている「認知症カフェ」で、高齢者の方々とお話しをする傾聴ボランティアに参加しました。「認知症カフェ」は、認知症の方々や地域の方々が集まって、珈琲を飲みながら楽しく交流ができる素敵な場所です。また、認知症や介護などについての相談もおこなっています。人と話すことは認知症予防の一つであり、健康を維持していくために大切なことです。ある高齢者の方が「あなたとお話しできて嬉しい」とおっしゃってくださいました。私自身、高齢者の方々の豊かな人生経験やお話を聴かせていただいて勉強になりましたが、同時に高齢者の方々にも喜んでくださったと思うと、心があたたかくなりました。　福祉貢献学部　2年　後藤　みなみ

まちづくり　ボランティア情報誌『ボラみみ』編集作業

連携先：NPO法人ボラみみ情報局　織田様

連携先の方からのコメント

紙面を企画・編集することはとても大変な作業だと思いますが、できあがった紙面はなんとなく優しく思いやりのある記事だと感じていました。私たちは常に学生や社会人といったラベリングをしがちですが、学生の視点といっても一人ひとり同じ意見ではないこと。そうした違う意見を尊重しながら話し合いを重ねて紙面作り上げてきた姿勢を知り、感心するとともにみなさんの将来に大きな期待を持ちました。ありがとうございました。

学生コメント

私は５人の学生と“大学生だから考えたい、伝えたい”を大切に、新型コロナウイルスワクチンとジェンダーの内容の紙面を考えました。年齢も所属学部も異なる学生の話し合いでは、互いの意見を否定するのではなく、１つの意見から派生して新たに意見を出したり、意見を付け加えたりすることを意識しました。そうすることで、話し合いを重ねるごとにチームとしてまとまりが生まれ、全員の意見が１つになり紙面が完成しました。この活動を通して、チームとして動くために互いを尊重し、認め合うことの大切さを学びました。このような冊子編集の活動に携わらせていただき、ありがとうございました。　人間情報学部　3年　北村　紗英

青少年育成　里親と暮らす子どもたちの勉強サポート

連携先：里親連合会ジュニアクラブ　金子様

連携先の方からのコメント

里親家庭で暮らす子どもたちにも学びのチャンスをもっと、と思い相談させて頂きました。勉強会だけに留まらず、キャンパス内謎解き探検ゲームなど貴重な体験をさせていただき大満足でした。「愛知淑徳大学に入学する」などと言い出す子どもも出てきて、将来の夢へのお手伝いを学生のみなさんのサポートで描くことができたのかなと思っております。夢への扉はたくさんあった方がいいと思います。CCCの素晴らしい活動と子どもたちの未来のコラボ、これからもよろしくお願いいたします。

学生コメント

勉強を教えてほしい！大学生と遊びたい！という思いを持った里子さんと勉強会をおこないました。勉強会の前には参加する学生を対象に研修がおこなわれ、児童養護施設の方などから里親制度やそれぞれ異なる家庭事情を抱えていたこと、当日のルールなどを教えていただきました。それを参考に前半は勉強、後半は「大学」を知ってもらうため大学を使ったクイズラリーをおこないました。参加前は子どもたちが心を開いて話してくれるのか不安でしたが、好きなアニメの話などで盛り上がり子どもたちと学生の笑顔があふれる会になりました。今後もただ勉強を教えるだけではなく、大学に興味を持って進学したいと思ってもらえるよう活動を続けていきたいです。　交流文化学部　2年　山本　羽奈

(2) 学生団体などによる自主活動の支援

ボランティア活動への「参加」に留まらず、同じ社会問題に共感する学生たちが集まり、課題解決に向け、自主的に活動しています。

CCCを基盤に自主活動をおこなっている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けています。その数は現在、約30団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業などと連携して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」としてサポートします。また、自分たちの体験を振り返るための自己点検報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しています。

Buzz-4U

私たちBuzz-4Uは、アーバンラフレ星ヶ丘にて小学生と一緒にSDGsを学ぶ「バズのSDGsハカセ」というイベントを開催しています。11月には「14番：海の豊かさを守ろう」をテーマに世界の現状や取り組みをゲームを交えながら伝え、どうすべきかを一緒に考えました。SDGsという規模の大きな話はどうしても他人事のように感じてしまいがちだけれど、案外私たちの生活に根付いていて、身近な問題として存在しています。SDGsが子どもを中心により多くの人の「ジブンゴト」になるよう、これからも頑張ります！

交流文化学部　2年　本田　早伽

エネAS

私たちは東邦ガスさんが運営する東海市のガスエネルギー館で小学校低学年向けの環境イベントを企画・運営しています。今年度はオンラインイベントにチャレンジしました。正直昨年度に引き続きコロナ禍でのイベントが盛り上がるか不安でした。そのため子どもたち一人一人専用の道具や資料を用意したりオンラインイベントでは少人数で作業をしたりと感染症対策によって制限があっても、物理的な距離感を感じさせない工夫をしました。その結果子どもたちと対面より密なコミュニケーションがとれた充実したイベントになりました。イベント形式がオンラインに変わり不安でしたが、相手のために私達も工夫をして変化に対応することの大切さを学びました。

ビジネス学部　3年　高橋　茉奈

Change

Changeは運動が苦手な子どもにも運動をする楽しさを知ってもらうことを目的としています。今年度もコロナの影響で活動が制限されてしまいました。しかし、このような時だからこそ身体を動かすきっかけをつくり、楽しさを共有したいと思いました。そこでメンバーと話し合いを重ね、「コロナに負けない身体づくり」と題したクイズと簡単なダンスに挑戦する、対面×オンライン型のイベントを開催しました。企画を通して子どもたちが元気よく参加する姿が見られ、「楽しかった」という声を聞くことができました。そして、自分の身体について興味をもってくれたことがとても嬉しかったです。今後も子どもたちに運動の楽しさを共有していきたいと思います。

人間情報学部　3年　牧野　文香

コミュカフェ

私たちは、福祉施設に近寄り難いというイメージを、地域のコミュニティの場として開くことで改善したいという思いで活動しています。また、私たち学生と高齢者の方の交流も大切にしています。2019年度以前は季節に合わせた工作やレクリエーションを通した交流の場を定期的に提供していましたが、今年度はオンライン形式で福祉施設の高齢者の方とレクリエーションをおこなう活動を不定期でおこないました。私たちの考えたもので笑顔になっている様子を見て、工作や１対１の会話ができなくても、交流を続けることで人とのつながりを感じてもらえることを実感しました。今後も福祉施設とのつながりを通じて、より地域の方も巻き込んだ活動をしたいです。

心理学部　3年　渡辺　彩乃

(3)【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生による様々な自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成と活動サポートプログラムの提供をおこなっています。

2021年度は、「スタートアップ部門（助成額上限５万円）」、「一般部門（助成額上限10万円）」の２部門において、公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、６団体が採択され、それぞれの活動を展開しました。

2021年度チャレンジファンド採択団体一覧

※法人名省略

	団体名	活動内容	主な連携先
スタートアップ部門	ASU element project	子どもが英語や異文化に触れたり興味を持ったりするきっかけづくりをする	相野山学童
スタートアップ部門	Buzz-4U	SDGsの認知度を高め、行動に移してもらえるようなことを目的に、SDGsゲームを考えるなどの啓発活動をおこなう	都市再生機構（UR都市機構）
一般部門	アミーゴ	県内の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む	シェイクハンズ、西尾市教育委員会
一般部門	チームわんわん	小学校での授業やワークショップを通じて介助犬の認知度・理解拡充を図る	日本介助犬協会
一般部門	ユニこまPlus+	今までおこなってきた、障がいがある人の服のリメイク活動をパンフレットにして様々な人へ共有する	ユニクロ星が丘テラス店、えとせとら、ファクトリエ星が丘テラス店、瀬戸市立瀬戸特別支援学校
一般部門	Fsus4	高齢者施設と障がい者施設に演奏とメッセージを収録したDVDを贈り、楽しんでもらい、つながりを持ち続ける	愛知たいようの杜、森孝しぜんかん

スタートアップ部門

ASU element project

活動内容　活動内の主要言語を英語とし、メンバーによって海外の生活の場を再現した環境で児童に実際に異文化による生活を体験してもらう

主な連携先　相野山学童

私たちの団体では、英会話教室に通っているか否か、海外に旅行や留学をしたことがあるか否かに関わらず、子どもが英語や異文化に触れたり、興味を持ったりするきっかけづくりをすることを目的に活動をしています。その中でも、３回目の企画では、留学生とZoomをつなぎ、世界旅行と称した異文化交流会をおこないました。留学生に身を乗り出して質問を重ね、一心不乱にひらがなやカタカナを使って時間をかけてでも思い思いにメモをとっていました。また交流する中で知った漢字や言葉をこれまでの日常生活から探し出して答え合わせをする様子も多く見られ、まさに私たちの団体が本プロジェクトの目的に掲げた子どもたちの姿そのものであり、目の当たりにすることができて非常に胸がいっぱいになりました。

一般部門

アミーゴ

活動内容　県内の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む

主な連携先　シェイクハンズ、西尾市教育委員会

私たちアミーゴは、外国にルーツを持つ子どもたちと様々な交流を通して、子どもたちの可能性や将来を見出す活動をおこなっています。交流会では、夢について語り合う「ドリームマップ作り」をおこなっています。好きなことやものを通して夢を考え、こどもたちの心にある想いを外に発信することを目的としています。また、子どもたちとの交流を一度きりにしないため、今年度より活動後に大学生からこどもたちへメッセージカードを送ることを始めました。自分たちで作ったカードを直接届け、子どもたちの笑顔を再び見られたときは、私たちにとって非常に幸せな瞬間でした。これからも一つひとつの活動を大切にしながら有意義な活動ができるよう、子どもたちのサポートしていきたいです。

交流文化学部　3年　中村　春月

Fsus 4

活動内容　高齢者施設と障がい者施設に演奏とメッセージを収録したDVDを贈り、楽しんでもらい、つながりを持ち続ける

主な連携先　愛知たいようの杜、森孝しぜんかん

Fsus 4は高齢者施設や障がい者施設での演奏や交流を通して、施設利用者と「一緒に楽しむこと」を大切に活動しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症で中止していた高齢者施設への訪問を再開しました。コロナ禍での訪問はメンバーと施設利用者で物理的距離が必要で、例年通り会話を楽しむことが困難になり、自分一人の力では解決できない状況でした。そこでミーティングを開き、施設利用者一人ひとりが楽しめる交流方法をメンバー間で話し合い、声の届きづらい方でも視覚的に楽しめるよう、画用紙を使用する方法を考えました。それにより、距離ができてもメンバーと施設利用者間で笑顔が飛び交う交流を図ることができました。今年度の活動を通し、一人で抱えずに仲間と協力し、共に成長していくことの大切さを学びました。

福祉貢献学部　3年　上條　真美

ユニこまPlus＋

活動内容　今までおこなってきた、障がいがある人の服のリメイク活動をパンフレットにして様々な人へ共有する

主な連携先　ユニクロ星が丘テラス店、えとせとら、ファクトリエ星が丘テラス店、瀬戸市立瀬戸特別支援学校

ユニこまPlus＋は障がいがある子どもたちに服をリメイクする活動やボッチャの交流会の開催を実施してきました。そして、障がいにより着たい服が着られない、ボッチャを通して、つながりたいという思いに応えてきました。今年は新型コロナウイルス感染症のため、パンフレット作成をおこないました。パンフレット作成をおこなう中で心境の変化がありました。作成をおこなう前は、おこなってきた活動が、「どうつながっているのか」が明確になっていませんでした。しかし、パンフレットにまとめることで、今までの活動を振り返ることができ、パンフレットを読んでいただいた方に伝えたいメッセージがあることに気づくことができました。これからもユニこまPlus＋は、障がいがある子どもたちに寄り添って活動していけたらと思います。

福祉貢献学部　4年　堀田　実咲

⑦ 学生スタッフの活動

学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の持つ様々な思いを形にする重要な役割を担っています。

会話を通して、一人ひとりの個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく自ら企画などもおこなっています。

2021年度　学生スタッフ

■ 長久手キャンパス

梅津　真衣（健康医療科学部３年）
神谷　結衣（健康医療科学部３年）
北村　紗英（人間情報学部３年）

■ 星が丘キャンパス

伊藤　菜々子（交流文化学部４年）
三浦　真梨乃（交流文化学部４年）
岩井　祐斗（交流文化学部３年）
中嶋　里帆（ビジネス学部３年）
數馬　鈴菜（交流文化学部２年）
山本　羽奈（交流文化学部２年）

2021年度の主な活動

2021年４月26日～28日	オンライン新入生歓迎会（星が丘CCC）
2021年５月10日～14日	オンライン新入生歓迎会（長久手CCC）
2021年７月６日～８日	学生団体紹介会（星が丘CCC）
2021年７月５日～８日	学生団体紹介会（長久手CCC）
2021年10月14日、19日、21日、26日、11月９日、11日、24日、12月23日	CCCの活動を知ろう！～SDGsと学生団体を知ろう～（星が丘CCC）
2021年10月11日～22日	○○団体の先輩、待ってますよ会（長久手CCC）
2021年11月４日、11日、29日、12月７日、13日、14日、20日	CCC学生団体ワークショップ
2021年12月６日～10日	楽しいことしちゃお、身近なことを知ろう会（長久手CCC）
2021年12月11日	オープンコラボメッセ（ハートフル祭り（株式会社デンソー様とのコラボ））
2021年12月19日	コラボメッセ

楽しいことしちゃお、身近なことを知ろう会（長久手CCC）

これからボランティアをしてみたい人や、CCCに寄るきっかけをつくるために、学生団体の活動体験を企画し、その中の一つにユニこまPlus＋のボッチャ体験をおこないました。ボッチャとはパラリンピックの正式種目の一つであり、目標のボールにいかに近づけるかを競い合う競技です。参加した学生が２チームに分かれてボッチャをおこないました。ほとんどが初対面の学生同士でボッチャをおこなうのも初めてでしたが、思っていた以上に盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。CCCで何か始めてみたいが中々踏み込むことができないという学生のためにも、ふらっと入って来れるような企画づくりをこれからもおこないたいと思います。

健康医療科学部　３年　神谷　結衣

卒業する学生スタッフのコメント

CCCでの経験一つひとつにたくさんの人の温かさがあり、その温かさから尊重し合う心を学びました。それが、どんな状況でも自分らしく一生懸命向き合う糧となり、私の中に大きな存在として残っています。これからは、CCCで学んだ一つひとつの温かさを、自分らしいかたちで地域の人につなげていこうと思います。

交流文化学部　４年　伊藤　菜々子

４年間を振り返って、自分自身と向き合うことができた時間だなと思いました。自分って何ができるのか、また何ができないのか、何に興味があるのかなど自分自身との自問自答を繰り返ししていた気がします。しかし、全てが良い方向に考えられず、時には嫌になることもありました。少しずつではありますが、そういったところも受け入れることができた４年間だったと思います。

交流文化学部　４年　三浦　真梨乃

⑧ センター長より 2021年度 全体講評

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長　森　博子
（人間情報学部　教授）

2021年度は、前年度に引き続きコロナウイルス感染症の流行により、対面での活動が制限される年でした。幸いにもコロナ感染者数が少なく、感染対策を万全にして対面活動が一部可能になった時期もありました。多くの対面活動は中止になったものの、「困っている人のために何かやりたい」という思いは変わらず、活動日の延期や方式（対面から遠隔）を変更しながら活動しました。また、前年度からのオンラインや郵送を駆使しながらの活動を継続したり、遠隔での活動の知恵を対面に活かしたり、遠隔と対面の活動を併用したりしました。さらに、コロナ禍でも社会貢献を学べるよう、第一線で活躍している国内外の講師をお招きしオンラインで勉強会を定期的に実施しました。これらの取り組みは広く認められ、新聞社の取材を何度も受けました。

2021年度もコロナ禍は大きな壁でしたが、学生がそれを乗り越えて地域活動・社会貢献できたことは、学生にとって大きな力、そしてたからものになったと思います。これも、地域の皆様、企業・団体・行政の皆様、学内外の教職員の皆様より、貴重な機会を与えていただいたおかげです。ここに深く感謝いたします。今後も、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

⑨ 初めてボランティアを募集される方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

ボランティアを募集される場合は、まずはHPでご確認いただき、お電話でご連絡ください。

URL　https://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/volunteer/01.html

2021年度　CCC運営委員

●委員長　森　博子（人間情報学部）
三和義武（文学部）
西出隆紀（心理学部）
柳井貴士（創造表現学部）
山本周史（健康医療科学部）
中村弘佳（福祉貢献学部）
二文字屋脩（交流文化学部）
上原　衛（ビジネス学部）
KHALMIRZAEVA Saida（グローバル・コミュニケーション学部）
秋田有加里（コミュニティ・コラボレーションセンター）

スタッフ

●長久手キャンパス
内山　恵
沖　直子
山本　愛
加藤由里子
石塚千夏

●星が丘キャンパス
秋田有加里
日比野愛
柴田真里亜